

◇ 仙ヶ岳・宮指路岳・入道ヶ岳

2018年3月10日(土)

岡本・右田

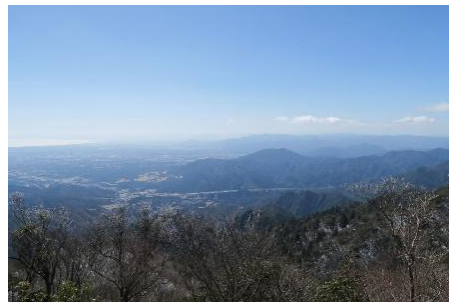
先日、綿向山山行時に見えていた雨乞岳か宮指路岳方面へ行く話になり、宮指路岳方面に行くことにした。季節風も少し収まり、好天期待で出発。ルートは小岐須溪谷から仙鷄尾根、仙ヶ岳、宮指路岳、イワクラ尾根、入道ヶ岳、小岐須溪谷と周遊することにした。9時少し前に登山口の大石橋に着く。数台の車があり、先行者がいるようだ。

9:02 出発、30分弱林道を歩く。途中、樹林の間から仙ヶ岳が見える。大阪ではどんよりしていた空が、まずまずの青空になっている。林道終点から15分程度歩くと小社峠との分岐に出て、仙鷄尾根の標識の方へルートを取る。きつい斜面のトラバースルートが続き、所々凍っているところもあり、注意深く歩く。途中、先に出たグループに追いつくが、枯れ葉の上に少し雪が積もり、一緒にルートを外したようだ。少し戻りルートを探し、通常のコースに戻る。ここで先行し、沢筋から急な登



(仙鷄尾根との出合)

りを一気に登ると痩せた仙鷄尾根に出る(10:27)。少し休み出発する。

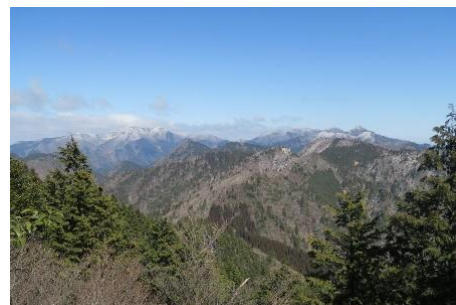


(尾根から新名神方面)



(樹氷の向こうに仙ヶ岳)

仙鷄尾根は所々が崩れ、もろい箇所もある。風も結構強く、気温も低くて少し寒いが、幸い積雪や凍結箇所も殆ど無く、無事仙ノ石に着く。ここからは新名神方面が綺麗に見える。



(仙ヶ岳から雨乞～鎌方面)



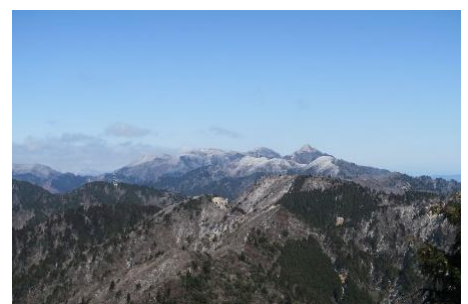
(仙ヶ岳山頂)

暫く行くと東仙ヶ岳方面との分岐にでる。東仙ヶ岳に寄り、直ぐ樹氷の向こうに見える西仙ヶ岳(仙ヶ岳)へと向かう。

11:10、仙ヶ岳着。ここからは、雨乞岳～鎌ヶ岳方面が綺麗に見える。少し急がないといけないので10分程休み出発。



(仙ヶ岳から雨乞岳)



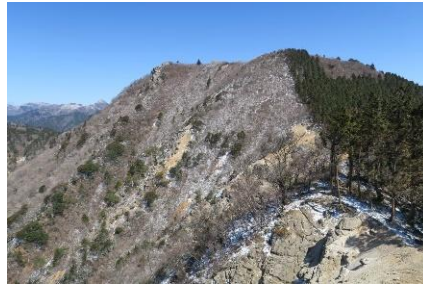
(仙ヶ岳から鎌ヶ岳)

仙ヶ岳と宮指路岳とは然程標高差はないが結構アップダウンがあり、風も強く体力を消耗

しそうだ。が、展望の利く所も多く、ガレ場や痩せたザラ場や、雪の付いている所もあり、疲れている暇はない。最後のガレ場を越え、標高差100m弱を登り切ると、12:35 宮指路岳の山頂に着く。ここで昼食らしきものを取り、12:50 出発。



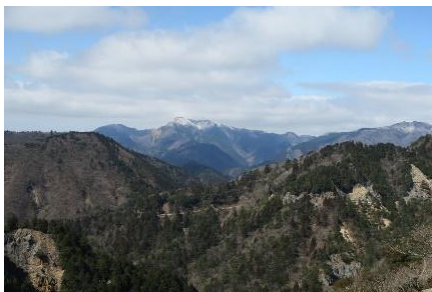
(仙ヶ岳から雨乞岳)



(尾根から宮指路岳)



(宮指路岳山頂)



(水沢岳・綿向山・雨乞岳方面)

ここから水沢峠方面へ向かうが、この辺りからは枯れ葉や雪の残っているところもあり、少しコースがはっきりしないところも出てくる。小岐須峠からの下山ルート、カラコバ道は荒廃箇所があり通行止めになっている。だらだらとアップダウンを繰り返すこと約1時間、水沢峠と入道ヶ岳との分岐に出る(13:50)。

ここからの尾根も結構アップダウンがきつく、所々ガレているところや、もろい箇所もあり注意が必要だ。最後の

標高差 100m余りの急斜面を登り切ると、突然なだらかな道に出る。暫く行くと入道ヶ岳山頂の鳥居が見える。途中、椿大神社奥宮により、少し下り笹原を登り切ると入道ヶ岳山頂だ(15:00)。少し風があるが、ここで暫し休憩とする。



(入道ヶ岳山頂)



(入道ヶ岳から鎌ヶ岳)

15:15 出発、池ヶ谷コースを取る。後は下るだけ、と思ったが、出だしから沢の中のルートがはっきりせず、雪の残っている、ゴロゴロした岩の間を下りる。所々で徒渉を繰り返し、やがて谷を高巻きし、谷からかなりの標高差が出来た辺りで、滝谷へ出るコースとの分岐点に出る。そこから沢まで滑りやすい道を急降下し、沢に出て何度か徒渉し、また高巻き道に出る。高巻きが終わり、急降下すると駐車場に続く林道に出る。上り坂の林道を少し歩き、大石橋を越えると駐車場だ(16:30)。トータル7時間半、中々歩き応えのある面白いコースでした。